

病院名 埼玉県立がんセンター
都道府県名 埼玉県

都道府県の情報

埼玉県内の総人口	7,337,846 人 (2022/9/1)
がん死亡者数	19,475 人 (2018年)
がん死亡者割合	約 3 割
高齢化率	26.7% (2019年)



埼玉県立がんセンター



埼玉県内のがん患者の状況 罹患数

男性				女性		
順位	がん種	罹患者数 (件)	罹患率 (%)	がん種	罹患者数 (件)	罹患率 (%)
1	前立腺	5,394	17.7	乳房	5,354	24.8
2	胃	4,601	15.1	結腸	2,331	10.8
3	肺	4,327	14.2	肺	1,921	8.9
4	結腸	3,047	10.0	胃	1,835	8.5
5	直腸	1,950	6.4	子宮	1,662	7.7

病院名 埼玉県立がんセンター
都道府県名 埼玉県

埼玉県内のがん患者の状況 死亡数

	男性			女性		
順位	がん種	死亡数	死亡率	がん種	死亡数	死亡率
1	肺	2,776	23.3	肺	1,044	13.8
2	胃	1,751	14.7	結腸	877	11.6
3	結腸	1,001	8.4	乳房	802	10.6
4	膵臓	917	7.7	膵臓	794	10.5
5	肝及び肝 内胆管	774	6.5	胃	749	9.9

病院名 埼玉県立がんセンター
都道府県名 埼玉県

がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病院（国指定） 1施設
埼玉県立がんセンター 503床

地域がん診療連携拠点病院（国指定/高度型） 2施設
埼玉医科大学国際医療センター 700床
埼玉医科大学総合医療センター 1050床

地域がん診療連携拠点病院（国指定） 11施設
上尾中央総合病院 733床
川口市立医療センター 539床
済生会川口総合病院 424床
戸田中央総合病院 517床
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 550床
春日部市立医療センター 363床
獨協医科大学埼玉医療センター 928床
さいたま赤十字病院 638床
さいたま市立病院 637床
自治医科大学附属さいたま医療センター 628床
深谷赤十字病院 474床

病院名 埼玉県立がんセンター
都道府県名 埼玉県

がん診療連携拠点病院の情報

地域がん診療連携拠点病院（県指定） 12施設

埼玉協同病院 399床

TMGあさか医療センター 446床

秀和総合病院 350床

越谷市立病院 481床

埼玉メディカルセンター 395床

彩の国東大宮メディカルセンター 337床

さいたま市民医療センター 340床

小川赤十字病院 302床

埼玉石心会病院 450床

防衛医科大学学校病院 641床

行田総合病院 504床

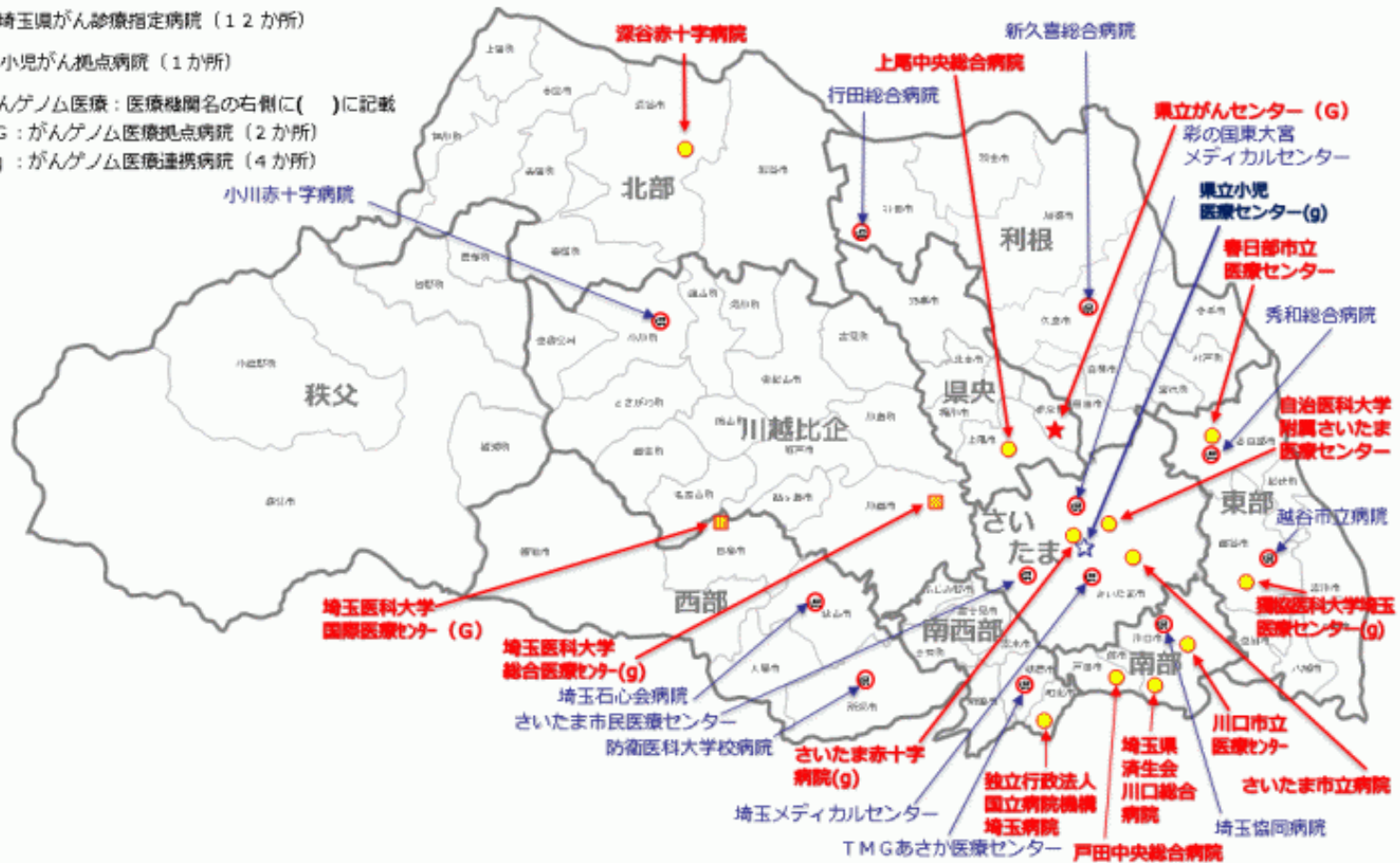
新久喜総合病院 336床

小児がん拠点病院（国指定） 1施設

埼玉県立小児医療センター 316床

がん診療病院の情報

- ★：都道府県がん診療連携拠点病院(1か所)
- ：地域がん診療連携拠点病院[高度型](2か所)
- ：地域がん診療連携拠点病院(11か所)
- Ⓜ：埼玉県がん診療指定病院(12か所)
- ☆：小児がん拠点病院(1か所)
- ※がんゲノム医療：医療機関名の右側に()に記載
 G：がんゲノム医療拠点病院(2か所)
 g：がんゲノム医療連携病院(4か所)



都道府県におけるがん医療の特性

- ・人口が中央、県南に集中している
- ・がん拠点病院が中央、県南に集中している
- ・県内のがん医療に携わる専門医や専門職は、関東の一都六県と比較して少ない

がん関係専門医

平成29年(2017年)10月調べ

名称	認定学会等	埼玉県	東京都	神奈川県	千葉県	栃木県	群馬県	茨城県	全国
がん治療認定医	一般社団法人 日本がん治療認定医機構	502	2,274	1006	579	209	236	233	15,572
がん治療認定医 (歯科口腔外科)	一般社団法人 日本がん治療認定医機構	7	46	29	18	12	4	7	427
がん薬物療法専門医	公益社団法人 日本臨床腫瘍学会	28	189	66	44	7	13	8	1190
指導医	公益社団法人 日本臨床腫瘍学会	13	81	30	22	3	7	3	564
専門医	特定非営利活動法人 日本緩和医療学会	4	34	8	11	1	4	4	178
暫定指導医	特定非営利活動法人 日本緩和医療学会	19	81	34	25	5	11	9	544

都道府県におけるがん医療の特性

・市町村が実施しているがん検診の受診率は、胃がん・肺がん・子宮がんについては、全国平均に比べて低い

市町村が実施するがん検診受診率

単位：%

年度	胃がん		肺がん		大腸がん		子宮がん		乳がん	
	全国	埼玉	全国	埼玉	全国	埼玉	全国	埼玉	全国	埼玉
平成27年度	6.3	4.1	11.2	10.1	13.8	13.9	23.3	20.2	20.0	22.1

資料：地域保健・健康増進事業報告

都道府県におけるがん化学療法の現状と課題

【現状】

- ・他施設と現場レベルで情報共有する場がない
- ・施設内での他職種と情報共有する場がない
- ・がん化学療法に対して、施設間のばらつきがある
- ・がん化学療法に対して、医療圏ごとのばらつきがある
- ・次世代への教育、マンパワーが不足している

【課題】

- ・多職種で関われない、関わったとしても情報共有の場がない
- ・地域差をなくす必要がある
- ・マンパワー不足
- ・次世代への教育の充実

都道府県単位でがん医療の質向上に資する活動

・第1回 多職種連携がん化学療法研修会 大腸がん患者の多職種支援

・参加者：22名、参加施設：5施設

医師：6名

看護師：7名

薬剤師：3名

MSW：3名

その他：2名（栄養士、臨床検査技師）

・内容（講義＋職種間ディスカッション）

医師：大腸がん治療の流れ

薬剤師：薬剤師の視点

看護師：ストマの管理、退院支援

・在宅療養支援

MSW：医療費・社会保障制度

令和4年度 多職種連携がん化学療法研修会

がん化学療法を症例から学ぶ
～大腸がん患者の多職種支援～

参加費
無料

がん診療において、それぞれの職種が自分の専門の「部分」で捉えず「全体」を捉えて患者さんをサポートすることが大切です。

「群盲象を評す」という寓話のように、それぞれの職種の専門知識や経験に偏っていませんか？

本研修会で多職種連携をより進める一助になれば幸いです。

【日時】

令和4年6月11日(土)

13:00～17:00 受付 12:30～

【対象】

埼玉県がん診療連携拠点・指定病院に所属する
医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー

【申し込み要件】

1 施設 2 職種以上でお申込みください
(例、医師と他の職種、看護師と他の職種など)

【開催方法】

オンライン (Zoom) ※1人1端末 (カメラ・マイク付き) でご参加ください

【お申込み】

下記サイトまたは右のQRコードからお申込みください
<https://www.saitama-pho.jp/saitama-cc/enquete2/gankagakuryouhou.html>



←スマホの方は
こちらからでも
登録できます。

【申込期間】

令和4年5月16日(月)～5月28日(土)

【研修内容】

症例を通して医師、薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカーによる
ミニレクチャー
職種間ディスカッション、全体ディスカッション

【アンケートのお願い】

受講前、受講後、受講3ヶ月後にアンケートをお願い致します。
修了証書は受講後アンケート提出後にメール添付送信致します。

【お問い合わせ】

埼玉県立がんセンター 医事・経営担当 丸山 048-722-1111 (代)
主催：埼玉県がん診療連携協議会 研修教育部会 埼玉県立がんセンター

病院名 埼玉県立がんセンター
都道府県名 埼玉県

研修でうまく行えている点をあげてください

- ・職種間ディスカッションを行った後、全体ディスカッションを行ったことで、発言しやすい環境をつくることができた。

上記が上手く行えるように工夫している点は何ですか

- ・コアメンバー、講師がファシリテーターとして参加して議論を促したこと
- ・コアメンバーがファシリテーターとして専念できるように、事務の方がZoom操作などバックアップしてくれたこと

研修で困っている事をあげてください

・コアメンバーの業務負担

研修教育部会として活動をしているが、コアメンバーの空いた時間を利用して準備などを行っているため業務負担が大きい。

・アンケート：無記名

率直な意見を取り入れるためアンケートを無記名とした。しかしながら個人を特定できないようにしたため、誰が回答したのかがわからず受講証を参加者全員に交付することになった。

・アンケート：回収率

事前：77.2%、事後：81.8%、3ヶ月後：50.0%

しかし、個人を特定していなかったため重複している可能性もある。

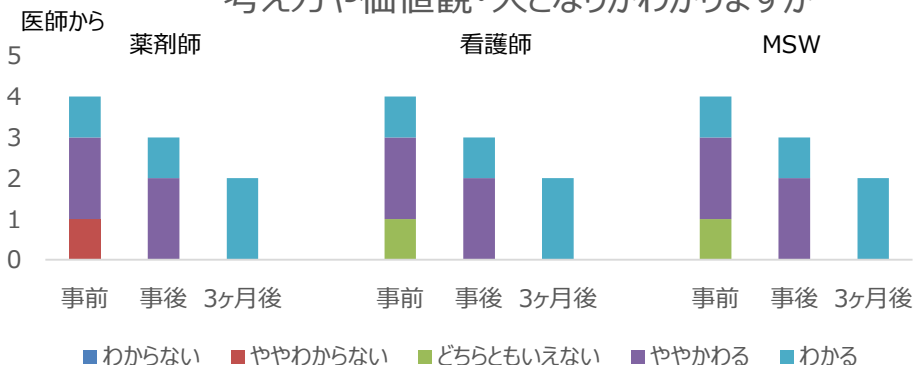
研修計画の評価

【研修デザインに関する評価】

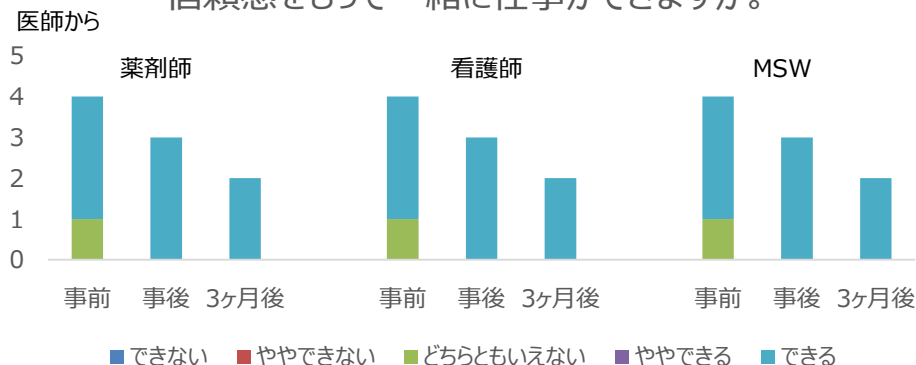
- ・研修時間・曜日は適切であった(しかし、その時間、その曜日に参加できた人を対象にしているためバイアスがある可能性がある)
- ・各職種の間わりについては「理解できた」「やや理解できた」が9割以上であった。
- ・研修会全体については「満足」「やや満足」と回答した割合は100%であった。

【研修結果に関する評価】 「わかる」「できる」が3ヶ月後も維持できていた

考え方や価値観・人となりがわかりますか



信頼感をもって一緒に仕事ができますか。



次回に向けた課題と方向性

【課題】

- 2職種以上の参加を条件とすると参加者が集まりにくい。しかし、条件を入れないと職種が集まらない可能性がある。
- 研修の評価ができるようにアンケートを特定化する必要がある。
- アンケート集計率を向上させる必要がある。

【方向性】

- 募集方法を検討する
- アンケートを特定できるようにする
- アンケートを記載してもらえるように参加者にアプローチをしていく。

研修の概要

【タイトル】

多職種チームで化学療法中の患者さんを支えよう！
乳がん患者の「周術期治療・妊孕性・お金」

【目的】

乳がん周術期患者さんへ、適切な時期に必要な情報提供を行い、安心して治療に向かえるよう支援することができる。

【対象者・人数】

一次募集：県内のがん拠点病院（医師・看護師・薬剤師・MSW）

二次募集：県内の乳腺を診ているクリニック・訪問看護師・保険薬局薬剤師

【目標】

一般目標（GIO）

- ・乳がん化学療法ของทีมを構築することができる
- ・乳がん患者さんに治療のことだけでなく、妊孕性や生活などについても適切な情報提供を行えることができる

到達目標（SBO）

- ・乳がんと診断された患者さんの抱える問題について知ることができる
- ・乳がん治療に携わる自施設の多職種の顔と名前を知ることができる
- ・乳がん患者さんが求めている情報を提供することができる
- ・乳がん患者さんが気がついていない問題について適切に情報提供をすることができる
- ・乳がん患者さんが抱えている問題について適切に他職種、他施設に紹介ができる

1日目

プログラム

開始	終了	時間	研修方法	内容
12:30	13:00	30		受付
13:00	13:10	10	挨拶・オリエンテーション	研修会の意図・目的説明
13:10	13:20	10		症例提示
13:20	13:30	10	気づきの時間	患者/家族として考えてみる時間
13:30	13:40	10	講義(Dr.)	治療方針の提示
13:40	14:10	30	GW	職種別GW
14:10	14:20	10		休憩
14:20	14:30	10	講義(Ph)	薬剤師(性腺毒性、ホルモン療法)
14:30	15:30	60	座談会(Dr.Ns.)	治療開始からその後
15:30	15:40	10		休憩
15:40	16:00	20	講義(MSW)	MSW: 医療費・助成金
16:00	16:45	45	GW	施設別/医療圏別GW
16:45	16:55	10		まとめ
16:55	17:00	5		挨拶

研修の評価

【実施評価】

- ・研修会の満足度:事後アンケート
- ・日程、時期、時間の長さ:事後アンケート

【結果評価】

- ・多職種連携(顔の見える関係性)について:事前・事後アンケート
- ・乳がん患者さんが抱える問題の理解について:事後アンケート

【企画評価】

- ・テーマの妥当性:参加者数・施設数・職種数
 - ・周知方法:参加者数・施設数・職種数
 - ・対象者の設定:参加者数・施設数・職種数
 - ・研修教育部会からの評価:幹部に研修会へ参加してもらう
 - ・県からの評価:第3回目から県を巻き込んで行えるようになる
-

受付

日時	2月23日(木) 12:30~13:00
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	事務局
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート

【学習目標】

【事前準備】

会場へ持ち込む備品類(ノート型PC, マウス, Hub, LANケーブル, 延長コード, タイマー)
PCは可能な限り有線LANでインターネットに接続

【会場準備】

受付の10分前には接続する

【すすめ方】

事前テスト(スピーカー、マイク、ビデオ、操作ボタン、設定の変更)、BGMを流す

【セッションでの留意点】

参加者名簿チェックと事前チェック終了後、事務局からWeb研修の注意点や困ったときの連絡方法を説明する。接続時、音声・画像の確認は必須とする。

ファシリテーター・事務局は名前の前に★をつける。

受講生に参加名を「職業 施設 名前」に変えてもらう(ex 医師はDr)。

セッション1 挨拶・オリエンテーション

日時	2月23日(木) 13:00~13:10
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	事務局、研修教育部会メンバー
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手、スポットライト

【学習目標】

研修の目的を理解する

【事前準備】

研修教育部会メンバーへ挨拶をお願いする

【会場準備】

【すすめ方】

研修の目的を説明し、研修教育部会メンバーから挨拶してもらう。

【セッションでの留意点】

話をする人にスポットライトを設定する。

話をしない人以外はミュートにする

セッション2 症例提示

日時	2月23日(木) 13:10~13:20
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	医師
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手、スポットライト

【学習目標】

これから検討する症例を理解する

【事前準備】

症例作成

【会場準備】

【すすめ方】

症例を提示する

症例について疑問点があれば質問してもらう

しかし、治療方針の質問についてはこのあとのセッションであるためここでは答えない

【セッションでの留意点】

話をする人にスポットライトを設定する。

話をしない人以外はミュートにする

セッション3 患者/家族として考える時間

日時	2月23日(木) 13:20 ~ 13:30
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	事務局
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手

【学習目標】

これから治療をはじめる患者さんの心境を医療者としてではなく患者/家族の立場で考えることができるようになる

【事前準備】

【会場準備】

【すすめ方】

考える時間を設け、その後どんな気持ちになったかを2~3人に発言してもらおう(ここでする?それとも職種別GW?)

【セッションでの留意点】

共感力の高そうな人(例えば女性、看護師)を一人目、二人目は医師に発言してもらおう
時間があれば3人目

セッション4 治療方針の提示

日時	2月23日(木) 13:30 ~13:40
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	医師
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手、スポットライト

【学習目標】

乳がん周術期化学療法の流れを理解できる

【事前準備】

治療方針のスライド

【会場準備】

【すすめ方】

主治医から治療方針を提示する

【セッションでの留意点】

話をする人にスポットライトを設定する。

話をしない人以外はミュートにする

セッション5 職種別GW

日時	2月23日(木) 13:40 ~ 14:10
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	各ファシリテーター
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ブレイクアウトルーム、ブロードキャスト

【学習目標】

乳がん患者さんに対して各職種の役割を認識する

【事前準備】

職種別ブレイクアウトルームの設定、ブロードキャストの設定(残り時間5分前)

【会場準備】

ブレイクアウトルーム

【すすめ方】

ファシリテーターが司会となり、自己紹介および先程感じたことについて発表してもらう
持ち時間は一人4分とし、必ず発表者のために使う
ファシリテーターが時間管理を行う

【セッションでの留意点】

この場で解決策を見つけるよりはアイスブレイキング的な意味合いが強くて構わない。
これからのセッションを活発にしていけるため、自施設での思いを吐き出す場でも可。その
代わりに参加者がまんべんなく話せるようにファシリテーターが介入する。

セッション6 抗がん薬による性腺毒性について

日時	2月23日(木) 14:20 ~14:30
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	薬剤師
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手

【学習目標】

乳がん周術期化学療法における妊孕性への影響の長さを理解できる

【事前準備】

スライドの作成

【会場準備】

【すすめ方】

薬剤師から乳がん周術期化学療法における性腺毒性について2~3枚程度のスライドで説明する

【セッションでの留意点】

詳細な知識を身に付けてもらうよりは、妊孕性に影響する長さについて理解してもらうようにする。

セッション7 治療開始からその後

日時	2月23日(木) 14:30 ~ 15:30
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	医師、看護師
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手

【学習目標】

乳がん周術期化学療法における意思決定支援について理解することができる

【事前準備】

スライドの作成

【会場準備】

【すすめ方】

症例に基づき主治医と看護師から治療を開始する前に必要な情報提供、意思決定支援を行っていく。

【セッションでの留意点】

主事と看護師の座談会のような掛け合いで行っていく
主治医と看護師にスポットライトが当たるようにする

セッション8 医療費・助成金について

日時	2月23日(木) 15:40 ~16:00
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	MSW
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手

【学習目標】

乳がん周術期化学療法におけるお金の問題について理解することができる

【事前準備】

スライドの作成

【会場準備】

【すすめ方】

MSWからお金や仕事、助成金について説明する

【セッションでの留意点】

話をする人にスポットライトを設定する。

話をしない人以外はミュートにする

セッション9 施設別/医療圏別GW

日時	2月23日(木) 16:00 ~ 16:45
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	各ファシリテーター
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ブレイクアウトルーム、ブロードキャスト

【学習目標】

自施設の乳がん患者さんに医療チームとしてどのように関わられるのか解決策のヒントを得ることができる

【事前準備】

施設/医療圏別ブレイクアウトルームの設定、ブロードキャストの設定(残り時間5分前)

【会場準備】

ブレイクアウトルーム

【すすめ方】

ファシリテーターが司会となり、自己紹介、課題、解決策について発表してもらう
ファシリテーターが時間管理を行う

【セッションでの留意点】

自施設での顔の見える関係性を作っていくことがメインの目標となる。
職種ごとの役割を認識し、自施設での解決策を見つけられればよりgood!

セッション10 まとめ

日時	2月23日(木) 16:45 ~16:55
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	事務局
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手、スポットライト

【学習目標】

各施設ごとの解決策から自施設でのヒントを得てもらう

【事前準備】

【会場準備】

【すすめ方】

全体を通しての質問

【セッションでの留意点】

各施設ごとこの発表の場合、質問がなければファシリテーターが率先して質問する

セッション11 閉会の挨拶

日時	2月23日(木) 16:55 ~17:00
場所	参加者:各自が所有するマイク・カメラ付きのパソコン 講師、ファシリテーター:がんセンター
セッティング	Zoom
担当	研修教育部会長、事務局
用意するもの	PC、ヘッドセット、ウェブカメラ
Zoomの主な使用機能	ミュート、画面共有、チャット、挙手、スポットライト

【学習目標】

【事前準備】

研修教育部会長に挨拶をお願いする

【会場準備】

【すすめ方】

研修教育部会長から感想をもらう。

事務連絡として事後アンケートのお願いと、事後アンケートを確認した後、修了証書を交付することのお知らせ

【セッションでの留意点】

話をする人にスポットライトを設定する。

話をしない人以外はミュートにする。